

第 103 回 全国健康保険協会千葉支部評議会の概要報告

開 催 日	平成 30 年 11 月 13 日 火曜日 14 : 30 ~ 16 : 00
開 催 場 所	日本生命千葉ビル 4 階会議室
出席者	飯田評議員、一法師評議員、小賀野評議員、鈴木評議員、中野評議員、萩原評議員、宮本評議員（五十音順）
議 題	1. 今後の評議会のスケジュールについて 2. 平成 31 年度保険料率の論点について 3. 平成 30 年度千葉支部重点事業の上期実施状況について
議 事 概 要 (主な意見等)	

開会挨拶

* 本日は大変お忙しい中、千葉支部評議会にご出席いただきありがとうございます。今回 5 名の評議員の交代がございましたが、協会本部におきましても運営委員会の委員交代がございました。運営委員会は支部評議会の全国版に該当するものであり、委員 9 名で構成されておりますが、今回 4 名の方が退任されました。退任された 4 名の方は、協会発足当時のメンバーとなりますが、退任挨拶の中で非常に印象的なお話がありました。

ちょうど 10 年前となる平成 20 年 10 月の協会発足時のリーマンショックによる急激な景気の落ち込みで、協会は一時 5,000 億円近い赤字に陥り、行先が全く見えなくなったこと、それを平成 22 年から 3 年間連続保険料率を上げることで何とか乗り切り、合わせて平成 27 年の健康保険法改正で国庫補助率が法定化されたことでようやく財政が安定したという退任挨拶でのお話は、危機的な状況を目の当たりにした方だからこそのお話であることを実感しました。

そして、その後の安定財政のもと、加入者の健康増進および良質かつ効率的な医療を受けられるようにすることで、加入者と事業主の利益の実現を図るという協会の基本使命達成のための体制整備と計画が着実に進捗しつつあります。このような基本方針のもと、千葉支部におきましては、「健康な職場づくり宣言」活動を 3 年前から開始し、支部職員がこれまでに 600 社以上を訪問し、内 380 社以上に従業員の健康づくりに取り組む宣言をしていただきました。そして、すでに禁煙支援や健康セミナーの提供などの支援活動を行っているところでございます。

また、千葉県をはじめとする自治体や外部団体とのコラボ活動の推進および医療審議会、地域医療構想調整会議などにも積極的に参画して意見発信も行っております。しかし、このような対外的活動（協会では戦略的保険者機能の発揮と言っております）への本格的な取り組みは最近のことであり、経験やノウハウが全く不足しているのが実情でもあります。我々としては、今まで以上に努力し活動を強化してまいります。評議員の皆様のお立場からのご意見・アドバイス等をいただければ幸いです。それでは、本日も活発なご議論をよろしくお願いいたします。

議事概要

1. 今後の評議会のスケジュールについて

■資料 1：今後の評議会のスケジュールについて

《主な意見・質問等》

◆前回（10月の評議会）に引き続き保険料率についての議題が設定されているが、今回の意見も前回同様に本部へ報告するのか。《学識経験者》

⇒今回、保険料率について議題を設けさせていただいた理由としては、評議員の変更にともない今までの経過を把握していただくためです。1月に保険料率に関する支部長意見の提出を予定していますが、その際には評議会の意見を併せて報告することとなります。

2. 平成31年度保険料率の論点について

■資料 2-1：平成30年度上期の取組について

■資料 2-2：協会けんぽ（医療分）の2017（平成29年）年度決算を足元とした収支見通し（2018年9月試算）について

《主な意見・質問等》

◆個人的に保険料は下げられるときは下げたほうが良いと思うが、中長期的な視点を踏まえて平均保険料率10%を堅持したいということであれば、広報紙やホームページにおいてわかりやすく協会の財政状況等の変遷を発信していくべき。そうすることで、保険料率を一時的に下げることがかえってのちに加入者の負担となる可能性があることを理解してもらえる。《学識経験者》

◆協会の準備金は3.1か月分と黒字ではあるが、健康保険組合の解散や外国人の雇用に関する法律改正の話がでていっている中で、中小企業がターゲットとなり易く、協会への影響も大きいと考え、現在の準備金は決して楽観視できるものではないと思うが、どのように対応するつもりなのか。《学識経験者》

⇒法案そのものが決まっていないため、外国人の雇用への対応に関する具体的な試算はありません。しかし、外国人の雇用の影響は絶対額からして大きなものではないと思われます。

また、健康保険組合の解散においても、協会は最後の受け皿であるため、今後も健康保険組合から流れてくることはあると思います。お示しした資料の推計には加味されていないため、今後考慮していかなければならない要素の一つであると認識しています。

◆制度の持続性を維持するためには、前述のような外的な要因を含めて予防的に考えていくことが重要である。また、保険料率を下げれば、その年だけでみると加入者にとって良いかもしれないが、長期的にみると負担が重くなることも示唆されているように思える。《学識経験者》

3. 平成 30 年度千葉支部重点事業の上期実施状況について

■資料 3：平成 30 年度千葉支部重点事業の上期実施状況について

■参考資料：平成 30 年度全国健康保険協会千葉支部事業計画

《主な意見・質問等》

特になし

特 記 事 項	
---------	--

・第 104 回千葉支部評議会開催予定 平成 30 年 12 月 4 日（火） 14：30～
--